

作品の設置方法を選んで、チェックをつけてください

☒ 台座置き

☐ 壁付

※台座置き作品は台座のサイズも分かるように記入すること
※台座のサイズは幅 600 × 奥行 400 × 高さ 1000mm 以内

作品 および 設置イメージ・説明・制作方法

【イメージイラスト】



【作品のサイズ】幅500 × 奥行き500×高さ500(mm)
【台座のサイズ】幅600 × 奥行き400 ×高さ50(mm)
【重量】約100kg(男性2人で搬入可能)
【素材】ガラス
【説明】本作は、黒を基調としたシックな空間において、調和を保ちながらも強い存在感とエネルギーを放ちます。
黒いガラスはシンプルな色味ながら、繊細で複雑なディテールを内包しており、住民を飽きさせないデザインとなっています。
また、近年は観光客の増加や再開発など、忙しい東京ならではの日常的なストレスや疲労を、限られた空間の中で少しでも和らげられるよう、落ち着きと安らぎを感じられる空間を演出します。
【制作方法】本作は吹きガラスの技法でアルミ箔と透明なガラスを混合するという独自のプロセスを用いながら制作します。
その技法によって生まれた黒色のガラスに細かな表情を加えていき、下から積み重ねるように一つの塊へと造形します。

【作品の表情のイメージ(過去作品から引用)】



【設置イメージ】



作 品 名	都市の狭間から		
素 材	ガラス	想定重量	100 kg
作品サイズ	横幅 500 × 奥行き 500 × 高さ 500	(単位：mm)	
作品コンセプト			
ガラスは造形において、重力や延伸力といった自然現象と、膨らませる・引っ張るなどの人工的な操作が共存する、自然と人工の両義性を持つ素材である。そこには、物理現象との「調和」と、作為という「主張」が同時に現れ、自然と人工の境界をどこに据えるかを探りながら造形している。 本作は、その構造をもとに「調和と主張」というテーマを造形に置き換えた。目黒区には、旧前田侯爵邸本館（駒場公園）や目黒雅叙園百段階段などの歴史的建造物が残る一方、再開発や都市化が進み、新築マンションが立ち並ぶ、既存の建築との「調和」と、現代性を示す「主張」とが共存する。 本作はその二重性に呼応し、ガラスの物性と都市の姿、双方に含まれる「調和と主張」を可視化する。空間に寄り添いながらも、確かな存在感を残す造形を通し、「調和と主張」が共存する居心地の良い空間を探っていく。			

過去の制作作品







